



テモテへの手紙第2 1-4章

テモテへの手紙第2

**2テモテ 1:-4:**  
マタイ10-12  
苦しみの中...  
いのちの約束...

2テモテ1:14-25:  
24:20 日に与えられたに  
27:4-21 日に与えられたに

テモテ1:14-25:  
24:20 日に与えられたに  
27:4-21 日に与えられたに

守る  
とどまる  
こぼす  
預心する  
パウロの模範

教える  
教える (預言者)  
子どもに教える(申6:7)

父-子(弟子)  
子は父の命令を守る (愛する=命令を守る)  
子は、その命令を、その子に教える。  
父を愛する子に父の命令を守る子にする  
マタイ28: 世の終り

2016.6.22

「わが子よ、信仰の戦いを戦え」  
テモテ、テス、ピレモン、パウロ

信仰  
2テモテ  
1テモテ  
パウロは囚人  
エペソに遣わすクレテ  
逆逆者 偽者  
テス  
ピレモン  
パウロ

- モテ・ヨシフ
- ダビデ・ピレモン (1テモテ23:28, 13:12)
- パウロ・エペソ
- ネレヤ
- ヨハネ13:1-17
- パウロ・テモテ

テモテへの手紙第2の分析をしていますけれど、だいたい終わりに近づいていると思います。

テモテ1・2、テス、ピレモン。これが、「わが子よ信仰の戦いを戦え」というグループの手紙だと思っています。第1テモテ、第2テモテは、「信仰の戦い」。テスとピレモンは、「わざ」。第1テモテ、テスは、「あなたを遣わします」。エペソに遣わします。クレテに遣わします。けれども、反逆者、偽り者、偽教師が現れる、その偽教師と戦うように。第2テモテ、ピレモンのほうは迫害苦しみで、パウロは囚人になっている。その苦しみを共にして、その戦いを戦ってくださいという4つのものかなと思います。

この苦しみの中で、迫害の中で、出だしの「いのちの約束のことば」に従って、その戦いを戦うようにということを教えている第2テモテ。4つの段落、1章,2章,3章,4章というように分かれていると思います。1章と4章は、パウロの模範。2章と3章は、テモテにこうしなさいと教えが書かれていると思います。1章と3章、2章と4章。いのちの約束のことばを心に刻んで守りなさいというのが、1章と3章。その受けたいのちの約束のことばを伝道しなさい、預言者として教えなさい。子どもたちによく教え込みなさいというのが、2章と4章というように分けられると思います。

「終わりの日に」これは、終わりの日ですね。第2テモテへの手紙がパウロの書いたものの一番最後の手紙だと思われます。「もう私の働きは終わって、いよいよ注ぎの供え物となります。世を去るときはすでに来ました」と言っている言い方です。マタイ福音書24章のところに終わりの日について預言がされています。エルサレムの崩壊について預言されているところにも、第2テモテにも、「冬にならないように祈りなさい」と

というのが、24章にあります。第2テモテにも「冬になる前に来てください」と、冬の話があるのも一緒に見るよというようなことを指示しているところかなと思います。

「見捨ててしまいました」最初の弁明の時に私は見捨てられて、でも、獅子の口から助けられましたという4章16節から18節のところは、詩篇22編や、第1サムエル17章のゴリヤテと戦うところで、具体的なところが体験として書かれているのは、そういうところも思い出すところです。

「父と子」父が子、父が弟子に教える、命令を守りなさいと教えるというのが、イエシュアであるヨシュアであるイエスが弟子たちに教えるところと、パウロが愛する弟子であるテモテに教えるところと似ているわけです。子どもが父の命令を守るように、そして、その子どもは、その命令をその子らに教えるようにと。「国々を弟子にしなさい、父の命令を守るように教えなさい。世の終わりまでわたしはあなたと共にいる」というのは、ヨシュアが11弟子に励ましているところです。

「愛する」というのは、神様の命令を守ることが愛するということですから、父を愛することをさらにその子に教えるということが、父であるパウロとテモテの関係だと思います。

似ているものは、最初がモーセとヨシュアなのでしょうね…はっきりとあるのは。ほかに創世記の中にあると思いますけれど、「強くあれ、雄々しくあれ」と言われているのは、モーセとヨシュア。ヨシュアと12部族。ダビデがソロモンに対して言ったところにも書かれています。ハガイがゼルバベルと大祭司ヨシュアに言っているところにも出てきます。ダニエルと黙示録のヨハネは、同じ主の使い、主の声に教えられているところですが、ここは父がいないのですよね。これは、ハガイが父みたいな感じなのですが、預言者は、父のことばの代理人なので、父のようなものということだと思います。モーセ、ダビデは、はっきり父と子とみたいになっています。あとは、エリヤとエリシャですね。預言者の声というのは、父の御声だということだと思いますけれど、その御声に聞き従うかどうか、そのことばを守るかどうか。守るといったときに、ただ自分が守るだけでなく、守るように教えるということも含まれて、この信仰の戦いを戦うようにと励まされている手紙だと思います。